

地域貢献部会報告

栗生田友子

新潟県立看護大学看護研究交流センター 地域貢献部会

地域貢献部会では、平成21年度より、新学長の提案のもとで、新たな試みを開始した。活動の名称は「看護大いきいきサロン」とし、本学の精神である「ゆうゆう暮らしづくり」を目指し、看護大学を場として「気軽に集い」「ひと時を楽しむ」人々をイメージして立ち上げた。

看護大いきいきサロンは、立ち上げまでの準備期間は4月から、7月までを要し、初年度である21年度に当初は3回までを計画するよう企画したが、開始と同時にプロジェクトのスタッフの機動力、役割分担がスムーズに進み、大きな機動力を発揮し、即実践に移した。

「看護大いきいきサロン」という名称は、看護大学を集いの場として、地域住民が気軽に大学に足を運び、健康について関心を寄せ学び合う場を目指すものとして企画されているが、集いのイメージは次のようなものとした。

I. 集いのイメージ

集いのイメージは「自分の健康に関心」を持ち、「広く学習したい」人々が、「看護大学が提供する資料や学習機会を活用」し、「より高い生活の質を求める」といったイメージでの公開講座であり、交流会である。

そしてそのねらいは、元気に生きることであり、生きる力を培うことにおいた。人は病になることや老いは避けることができない。それでも人は生き生きと暮らすことが出来る。看護大学はそれを支援するために力を発揮したい。

集いの場では、新しい健康の知識を得ることと合わせて、健康や医療について日頃抱えている疑問を表現し、意見を交わすことも考えた。そこで講師として、地域の力もお借りすることで交流の意味を深める、

主な活動計画は、開業している医師や医療スタッフを含めて、学外者と学内者を交互に講師として招く。教員あるいは講演者の一人一人がもつ専門的な知の提供ができる場を創成し、提供するサロン講座には、地域住民向けのものを用意する。そして「自由に声が出せる」「尋ねられる」ようする。

実際に開催した「看護大いきいきサロン」は次のようなものとなった。

II. 平成21年度のサロンのテーマ

看護大いきいきサロンのテーマと講師および参加者数

回	日時	テーマ	講師交渉の候補者	参加人数
第1回	9/28 (月) 18:30～	眼科における最近の話題	上越市 医療法人社団 喜修会 石田眼科 院長 石田 誠夫	67名

第2回	10/19 (月) 18:00～	いきいき脳活性化のひと工夫 —認知症の予防とケア—	本学 老年看護学教授 北川 公子	89名
第3回	11/25 (水) 18:00～	ちょっと人には話にくいおしっ この話 —前立腺肥大と女性の尿失禁—	大学前クリニック笹川 医院 院長 笹川 真人 日本泌尿器科学会専門 医	72名
第4回	12/17 (木) 18:00～	患者として医療者とどうつきあう か —33年間の透析患者としての体験 から—	本学 教授 杉田 収	約100名

Ⅲ. 企画当初の日程の目安とその後の変更

5月より企画立ち上げ作業にかかり、第1回目の開催は9月を目標とし、当面年内各月1回程度開催することとした。そして年度明けは、見直しを進めながら計画することを当初計画とした。とくに、冬季については開催日時等を調整もしくは降雪期を避けて開催する必要があると考えられ、第1回目において対象者に提案した。

当初は年内3回としたが、好評であることや定着にはもう少し続けておいたほうがよいと考えたことから、12月まで開催し、4回を月1回ペースで継続した。また結果的には、1、2月は降雪を考慮し企画しないこととして調整した。21年度が極めて豪雪にみまわれ、1、2月を避けたことは適切な判断であったと評価された。

開催日は月曜日の18:00～19:00ころ1時間程度の開催とした。その理由として、企画や実施に携わる教員スタッフが看護学の実習中であることが多く、ことに8月以降は常に実習があることがあった。そこで比較的教員スタッフが学内にいられる時間を設けることができると考えたのが月曜開催であった。

しかし、テーマや対象によって、たとえば子育てに関するテーマで若い人が対象となるような場合は、サタデーサロンも検討していくようにすることも考えたが、当面はイブニングスタイルでターゲットを近隣の人々、あるいは壮年、高齢者として、定着を図ることを目指した。

2009年12月時点までの変更として、学外の開業の医師は水曜休診日が多いため、水曜休診日での開催が便利であることがわかった。講演者に合わせることで18:30ではなく18:00の開始が可能となり、冬季の対応あるいは学生の参加を促すうえでは良かったかもしれない。

Ⅳ. テーマとねらいどころ

テーマ・内容は当面近隣の市民を対象としたもので、30分程度のプレゼンテーションや体験学習及び参加者同士の交流の場を設ける形式を考えていくようにした。

医学，看護学，その他のテーマを交互に選定．学生主体の企画も検討．医学系については主に受診したときに聞けないような四方山話も含めて検討した．

V. 開催場所

当初はおおよそ1回30名程度を想定し，主に高齢の方が集まる小規模のサロンをイメージして多目的室等を利用することを検討していたが，好評につき，1回あたりの参加者が収容しきれず，第1・第2ホール（100名収容の教室）を用いることとなった．

場の設定は，サロンスタイルを基調とし，教室の机を授業終了後にすべて撤去し，椅子のみで円を描くような配置とした．また，お茶のコーナーを設け，これは雰囲気を作るのには効果的で，意見交換がしやすい雰囲気を醸し出した．

VI. 今後の予定とテーマ案

開催テーマは企画者の意見とともに，出席者にも希望をとっている．そこで上がっているテーマは，例えば，「在宅医療について－在宅ターミナルケア」「壮年期のうつ・うつをどう避けるか」「オストメイト」「腰痛とのつきあい方・予防」「歯のはなし」「死別の悲しみを癒す」「じいじとばあばの子育て術」などがあがっており，次年度につなげた．

VII. 会の運営

(1)企画実行メンバー

地域貢献部会のメンバー4名が主として企画を進めた．そして当日の実行も含めて主にサロンのコーディネーターとして活動し，当日運営には学生ボランティアを募集し，受付や接待業務を依頼した．

机の撤去作業には事務職員が動員され，手分けして準備にあたった．

(2)活動資金

今年度は地域課題研究費の一部を充てた．

次年度以降については後援会の結成を視野に入れていくことを検討する．

(3)PR・広報

大学内広報関係の活用：大学広報(ポルティコの広場)，ホームページの活用

新聞掲載：看護大通信(新潟日報民間広報)，

上越タイムス，新潟日報，読売新聞，朝日新聞

パンフレットを作成し，実習病院，近隣のレストラン，市の派出機関，市役所内広報局等に置かせてもらうなどを検討．

テーマは順次決めていき2か月前くらいには広報を出すようにした．

(4)講演料

学内者は無料，学外者は1回1万円程度とし，食事は時間により準備するようにした．

(5)参加者への景品

2点を準備し参加者に配布

a. アンケートに記入してもらうため，ボールペン(毎回デザインの異なるもの)1本

- b. 選択できるもう1点 : キズ絆, 携帯用手洗いせっけん, メモタック, 眼鏡ふきなどを検討しすべて「いきいきサロン」と「ロゴマーク」を付けて配布.

Ⅷ. 講演資料の活用

講演者には紙面での同意(同意書を準備)を得て, 写真撮影, ビデオ撮影を実施した. 写真は, ホームページに広報用として活用し, ビデオは, 本学どこでもカレッジプロジェクトに, リカレント教育教材として自宅から見られるように準備した.

看護大いきいきサロン通信を発行し, PR および資料提供を含めてセンターに訪れる人向けに準備し, 配布した.

Ⅸ. 21年度の評価と今後の展望

このいきいきサロンは, 本年度から計画し新しい試みであったが, 想像以上の高い住民の評価をいただいた. サロンでは, 質問者が必ずあり, 気軽に何でも聞けることが好評を得た.

地域貢献として, まずは看護大学に初めて足を運んだという地域住民の声があったことで, 本学が地域に開かれていっているという実感を得ることができた. 公開講座の難しいタイトルではなく, いつも受診している「町のお医者さん」に健康のことを質問できることが, 参加者にとってはよい時間となっており, 大学がこうした地域で活躍する医療者を招き入れることで, 地域と医療もつながりをさらには看護大学ともつながりを得ることへと発展していったように思われる.

看護大学の教員担当の回もまた好評であり, 参加者はさらに上回っている. 治療だけでなくケアもまた住民の関心の深いところであり, 随時企画に組み入れていくことで看護大学の知もまた地域に役立てることができていけると考えられた.